

トライアルスタッフオン！ ラリー主催・活動コンセプト

仲間との楽しい思い出作り。いいうちあげのネタを作る。

(=クラブ結成時からの、クラブ活動のコンセプト)

いなべ福王ラリーについて

地域とラリーの振興を目的とする。

(いなべ市では、地域振興に適わないラリー開催は認められない。今後他地区に移動する事があっても、これは外すことはできないと思われる。)

地域振興とは

地域の人、モノ、金、それぞれの面に、ラリーが関り、貢献できる機会をうかがう。

ラリーの振興とは

先ず、クラブの内外で、参加費を払ってくれる選手の育成。人数と質を高める事。

次いで、クラブの内外で、ラリー開催を手伝ってくれる仲間の人数と質を高める。

最後に、ラリーを見に来てくれる、観客の人数と質の確保。

選手、オフィシャル、観客のすべての人に、安全に楽しんでもらえる機会を提供し
もって、ラリーに関わる人の数を増やし続けていくこと。

具体的なラリー開催手法

安全性と公平性の担保

安全性と公平性が担保されない限り、継続的に楽しいラリーイベントは出来ない。

安全性

JAFの規律する安全性についての各規則についての理解、遵守と、自分たちのフィールドや
実力、経験を踏まえた、独自の安全対策の履行。

選手には

車検での安全装備、安全対策の厳格なチェック。安全意識の向上を啓発。

→2017年は、メディカルチェック、アルコールチェックを実施

そのほか、競技の特性の再確認を促し、SS内でのトラブル対応など申し交わしておく。

→前後車両との関係、SOSサインの使用法、救護法、ドラブリ等で実施。

オフィシャルには

各ポストの服務について、意味を理解してもらい携わってもらう。

特にコースオフィシャルに於いては、ラリー競技の仕組みは勿論、自分と相手、
選手や観客の安全を意識した動きについて十分理解を求める。

観客には

ラリーの持つ危険性について、積極的に発信し、常に注意喚起を行う。

観戦マナーやモラルも安全に直結する事も発信して行く。例 ゴミタバコのポイ捨てなど。

コース設定

天候や路面を問わない、自己責任でのエントリーというラリーの性質上、一方で主催側のコース設定は大切。コースオフ時に身体に危険が及ぶ可能性のある個所については十分な対策を施す。また、観戦エリアにあっては、絶対にそこへ車両が飛び込まないようなレイアウトとする。

公平性

JAFの規則に則る事の意味を共有。同じ規則を順守し、それを厳格に履行管理する事でフェアな競争として成立する。不正は結果的に皆をしらけさせ、ラリー自体の感動や面白さを誰からも奪ってしまう事を、選手、オフィシャル、主催者が共有する。

車両

車検における点検を強化。特に結果に顕著に反映するタイヤの銘柄について、現在の規則に則した点検を実施し、違反ある場合は選手権での出走を認めない等の措置をする。規定安全装備についても、厳格に適用する。例えばヘルメットの期限切れなどは、走行性能に直接影響を与えないが、購入コストを抑えているならば、結果的には他の選手よりも金銭的に有利に参加している事になり、公平性を損なっていると言える。

これらは、安全装備品すべてに共通する問題であり、速くならない事にもお金を使う事も当然公平に行われなければならない。

重量計測 シリーズで対応を同じくするという原理原則から、履行すべきであると考え。違反に対する対応まで、準備が課題。

計時

全てのSSに於いて、バックアップを確立し、一台も未計測を出さない事。

印字式ストップウォッチの使用と通常のストップウォッチを併用し、前者故障の際は後者を正式とする。常時3名体制とし、いかなる事態にも対応できるようにする。

若し、人員減少、機材不調などが生じた場合は速やかに情報共有、対策を実施。

バックアップの状態のまま、放置しない事。

最終的には光電管計測と、フライングチェッカーの完全導入を目指す。

集計、暫定結果発表時には、プリンティングタイマーの記録との突き合わせを計時委員長と事務局長で行う。選手が命と財産を賭けて獲得した結果を慎重に取り扱い、しっかりと表彰式で称賛する事。

関わる人それぞれが力や個性を発揮し、ラリーへの参加と、ラリーで得た仲間との関係が、各自の人生の良き糧となりますように！